

**特別企画：2015年度九州・沖縄地区ホテル・旅館業売上高ランキング**

## 上位 50 社の売上高合計、5 年連続で前年度上回る インバウンドの追い風続く

### はじめに

日本政府観光局によると、2016年（2016年1月～12月）の訪日外国人数は前年比21.8%増の2403万人と4年連続で過去最高を更新。日本政府のビザ免除や発給要件の緩和措置、LCC（格安航空会社）の路線拡充、クルーズ船寄港数の増加などが寄与し、初めて2000万人を突破した。中でも、東アジアの中国、韓国、台湾、香港からの訪日外国人数は同23.1%増の1740万人と、全体の7割を超えている。こうしたインバウンド効果を追い風に、九州・沖縄地区（以下、九州）のホテル・旅館業界は、上位50社の売上高合計が5年連続で前年度を上回るなど、業績が好調に推移している。

この調査は、帝国データバンクの企業概要データベース「COSMOS2」（146万社収録）から、九州に本社を置き、ホテル・旅館経営を主業とする企業（受託運営会社を含む）1105社を抽出。売上高上位50社の2015年度（2015年4月期～2016年3月期）の業績などについてまとめた（売上高は一部推定も含む）。本調査は2016年3月に続いて8回目。

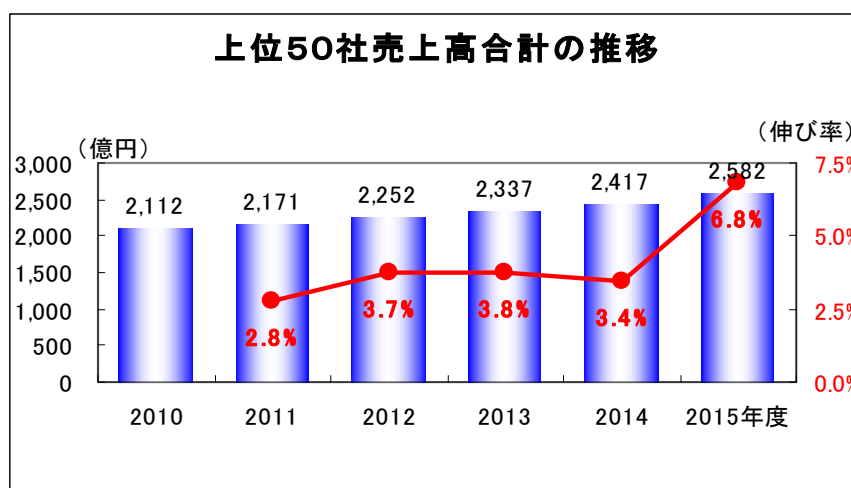
### 調査結果（要旨）

1. 上位50社の2015年度売上高合計は2581億6800万円（前年度比6.8%増）と5年連続で前年度を上回り、2010年度を底に増収基調が続いている
2. 売上高トップは8年連続でザ・テラスホテルズ（株）（那覇市）。前年3位の（株）杉乃井ホテル（大分県別府市）が（株）エフ・ジェイホテルズ（福岡市）を抜いて、2位に順位をあげた
3. 県別の企業数は、沖縄県が17社（前年度比1社減）で8年連続トップとなった。2位は福岡県で13社（前年度と同数）
4. 県別の売上高合計は、沖縄県が8年連続のトップで、前年度比1.2%増の841億1800万円。宮崎県を除く7県が前年度を上回った
5. 増収企業は前年度比6社増の36社。2012年度の35社を1社上回り、調査開始以降最多となった

### ◆上位50社の売上高合計は前年度比6.8%増、5年連続で前年度上回る

2015年度の上位50社売上高合計は前年度比6.8%増の2581億6800万円と、5年連続で前年度を上回った。増収企業は同6社増の36社で、2012年度の35社を上回り、調査開始以降最多となった。沖縄県は17社のうち12社（構成比70.6%）、福岡県は13社のうち12社（同92.3%）が増収企業。一方、減収企業は同5社減の8社にとどまった。横ばいは6社で前年度と変わらず。

最終損益の比較が可能な40社のうち、増益企業は前年度比3社増の19社、黒字転換企業は前年度と同じ5社。一方、減益企業は11社で前年度と変わらず。連続赤字企業は同1社減の3社、赤字転落企業は同2社減の2社だった。



### ◆県別売上高合計、宮崎県を除く7県が前年度上回る

県別の企業数を見ると、沖縄県が17社（前年度比1社減）で8年連続トップ。2位は福岡県の13社（前年度と同じ）。以下、長崎県が5社（前年度と同じ）、大分県、鹿児島県が各4社（前年度と同じ）と続いた。

**県別の企業数・売上高合計**

一方、県別の売上高合計は、沖縄県が841億1800万円（前年度比1.2%増）で8年連続トップだった。2位は福岡県で774億800万円（同6.0%増）。以下、大分県が280億7800万円（同6.3%増）と続き、宮崎県を除く7県が前年度を上回った。

	2014年度		2015年度		売上高伸び率
	企業数	売上高合計 (百万円)	企業数	売上高合計 (百万円)	
福岡県	13	73,025	13	77,408	6.0%
佐賀県	1	1,789	1	1,840	2.9%
長崎県	5	17,463	5	24,151	38.3%
熊本県	2	7,421	3	10,286	38.6%
大分県	4	26,414	4	28,078	6.3%
宮崎県	3	15,171	3	14,879	▲1.9%
鹿児島県	4	17,325	4	17,408	0.5%
沖縄県	18	83,112	17	84,118	1.2%
合計	50	241,720	50	258,168	6.8%

## ◆売上高トップは8年連続でザ・テラスホテルズ、杉乃井ホテルが2位に浮上

売上高トップは8年連続でザ・テラスホテルズ（株）（那覇市）。地場トップゼネコンの（株）國場組の関連企業として、リゾートホテル「ザ・ブセナテラス」やシティホテルのほか、ゴルフ場、映画館、飲食店の運営なども手がけている。沖縄県の入域観光客が好調に推移したことから、2016年3月期の年売上高は前年度比1.1%増の230億5100万円となった。

2位はオリックス不動産（株）子会社の（株）杉乃井ホテル（大分県別府市）で、前年の3位から順位をあげた。アミューズメント施設や大展望露天風呂、屋外型温泉施設、ブライダル施設、レストランなどを有する大型リゾートホテル「杉乃井ホテル」を主体に運営している。別府市を代表するリゾートホテルとして知名度は高く、利用客は全国に及ぶ。韓国や中国などの外国客の増加もあって、2016年3月期の年売上高は同12.5%増の135億円を計上した。

3位は（株）エフ・ジェイホテルズ（福岡市）。地場大手デベロッパー・福岡地所（株）のグループ企業で、「グランドハイアット福岡」などのシティホテルのほか、ビジネスホテル、レジャー施設などを運営している。近年は、グレードを高めたビジネスホテル「ホテルフォルツァ」を福岡市や大分市などに開設。台湾や韓国などからの外国人宿泊客も好調で、2015年5月期の年売上高は同1.7%増の127億4700万円を計上したものの、前年の2位から順位を下げた。

4位は（株）カトーレジャーグループ（大阪市）子会社の（株）KPG HOTEL & RESORT（長崎市）。リゾートホテル「オキナワ グランメール リゾート」「カフー リゾート フチャク コンド・ホテル」などを運営するほか、「長崎温泉 やすらぎ伊王島」を受託運営している。2014年11月のグループ企業（株）KPG LUXURY HOTELS合併にともなう増収や外国人宿泊客の増加のほか、ホテル分譲販売の売り上げもあって、2016年3月期は同108.4%増の約123億2100万円を計上。前年の13位から4位に浮上した。

## ◆倒産件数は前年度比3件減の8件

倒産（法的整理のみ、負債1000万円以上）動向をみると、2015年度は前年度比3件減の8件と、2年ぶりに前年度を下回った。なお、負債額10億円以上の大型倒産が前年度比2件増の3件発生したが、いずれも特別清算前の事業譲渡や再建型倒産の民事再生によるもので、ホテル事業は継続されている。

## まとめ

九州のホテル・旅館経営者は、2008年9月のリーマン・ショック以降の世界的な景気低迷の影響で経営環境が悪化していたが、2011年3月の九州新幹線全線開業効果もあって、2011年度より回復基調に転じている。九州運輸局によると、2016年の九州への外国人入国者数は前年比27.7%増の約361万7000人。2003年の統計開始以来、過去最高を記録した。

2015年の「世界各国・地域への外国人訪問者数」（日本政府観光局作成）をみると、日本は中国（5688万人）、タイ（2988万人）、香港（2668万人）、マレーシア（2572万人）に次いで、アジアで5位。世界では16位にとどまっているものの、2016年の訪日外国人数は前年比21.8%増の2403万人と過去最高を更新した。日本政府は、訪日外国人数を2020年に4000万人、2030年には6000万人に引き上げる目標を掲げるなど、成長戦略の柱として観光産業の育成を目指している。

「外国人観光客の増加にともない、ホテルの稼働率が上昇している。福岡はコンサートや学会などのイベントも多く、週末は予約が取りにくくなっている」（福岡市のシティホテルの担当者）。イベントなどが開催される時期には、県外のホテルを利用する宿泊客もあるなど、ホテル不足が深刻化しているという。

こうした状況を背景に、福岡市内ではビジネスホテルを中心に新築や増改築の動きが活発化しているが、その一方で人手不足の問題が浮上。「少ないスタッフでもホテル運営が可能なノウハウ・システムの構築に取り組む一方、飲食など関連部門を縮小し、その余剰人員を宿泊部門に投入して対応している」（同）と、人手不足対策に知恵を絞っている。

昨年4月に発生した熊本地震については、「地震発生後は宿泊客が減少したが、数カ月後には回復した。福岡を起点に大分や長崎などへ旅行する観光客が多く、『九州ふっこう割』の効果も大きかった」（同）と、影響は限定的だったとしている。

九州は、東アジアの玄関口という好立地に加え、温泉や食、豊かな自然、伝統文化・工芸、歴史遺産など観光資源に恵まれている。観光産業は将来の成長産業の柱となる可能性を秘めており、官民一体による各地の観光資源の掘り起こしと多彩なツアールートの開拓、多言語サービスの充実、外国人観光客誘引に有効なWi-Fi環境整備などの進展が不可欠だ。2017年1月の訪日外国人数も前年同月比24.0%増の229万6000人（日本政府観光局データ）と勢いは衰えておらず、今後も、ホテル・旅館業界にはインバウンドの追い風が続きそうだ。

## 2015年度 ホテル・旅館業売上高ランキング上位20社

順位	前年度 順位	社名	所在地	主要施設	創業	設立	決算 期	売上高 (百万 円)	売上高 伸び率
1	1	ザ・テラスホテルズ(株)	那覇市	ザ・ブセナテラス	—	1985年12月	3	23,051	1.1%
2	3	(株)杉乃井ホテル	大分県別府市	杉乃井ホテル	1944年	1965年3月	3	13,500	12.5%
3	2	(株)エフ・ジェイホテルズ	福岡市	グランド ハイアット 福岡	—	1978年3月	5	12,747	1.7%
4	13	(株)KPG HOTEL&RESORT (※1)	長崎市	オキナワ グランメール リゾ ート	—	2003年4月	3	12,321	108.4%
5	4	(株)アメイズ	大分市	HOTEL AZ	1911年	1924年11月	11	10,908	2.2%
6	5	(株)ホークスタウン	福岡市	ヒルトン福岡シーホーク	—	1989年7月	12	10,800	2.9%
7	6	フェニックスリゾート(株)	宮崎市	シェラトン・グランデ・オー シャンリゾート	—	1988年12月	3	9,057	▲2.7%
8	7	(株)かりゆし	那覇市	沖縄かりゆしビーチリゾート・ オーシャンスパ	1962年	1972年7月	3	9,049	0.1%
9	8	城山観光(株)	鹿児島市	城山観光ホテル	1961年	1968年4月	3	8,808	1.1%
10	9	(株)エイチピーデイコーポレーション	沖縄県恩納村	ルネッサンスリゾートオキナ ワ	1988年	1992年12月	11	8,100	5.2%
11	11	(株)ホテル日航福岡	福岡市	ホテル日航福岡	—	1987年4月	3	6,796	6.6%
12	10	沖縄オーラコーポレーション(株)	沖縄県恩納村	リザンシーパークホテル谷茶 ベイ	—	1992年5月	9	6,500	0.0%
13	12	(株)西鉄シティホテル	福岡市	西鉄グランドホテル	—	1999年4月	3	6,172	0.4%
14	14	(株)ニューオータニ九州	福岡市	ホテルニューオータニ博多	—	1976年9月	3	5,987	4.7%
15	15	(株)ホテルオークラ福岡	福岡市	ホテルオークラ福岡	—	1996年2月	3	5,908	3.6%
16	23	JR九州ホテルズ(株)	福岡市	JR九州ホテル プラッサム博 多中央	—	1999年4月	3	5,673	35.1%
17	16	(株)西鉄ホテルズ	福岡市	西鉄イン	—	1999年2月	3	5,621	2.2%
18	19	(株)ロワジュール・ホテルズ沖縄	那覇市	ロワジュールホテル那覇	—	1992年11月	12	5,126	12.0%
19	17	(株)カヌチャベイリゾート	沖縄県名護市	カヌチャベイホテル&ヴィラズ	—	1984年9月	6	5,079	3.5%
20	18	小倉ターミナルビル(株)	北九州市	ステーションホテル小倉	—	1995年6月	3	4,600	0.0%

(売上高は推定値を含む)

※1 2014年11月のグループ企業(株)KPG LUXURY HOTELS合併にともなう増収分、およびホテルの分譲販売による売上高が含まれる。

## 【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク福岡支店 情報部 担当:副島  
TEL 092-738-7779 FAX 092-738-8687

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。